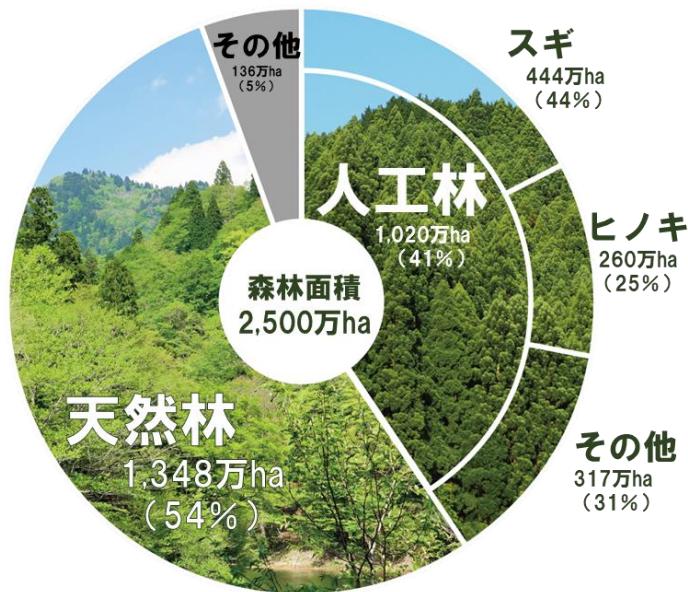
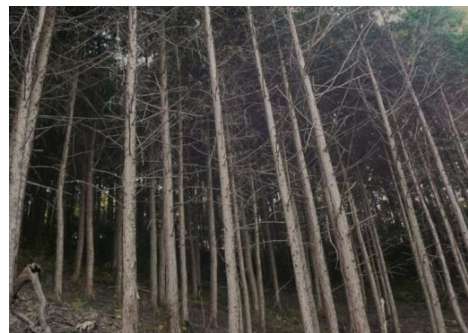




- 日本では主要な樹種が500種以上あると言われている中、スギ・ヒノキが人工林の約7割を占め、バランスが偏っている
- 針葉樹を植えすぎたことによる弊害（乏しい生物多様性、保水力の低下等）も指摘されている



単一の針葉樹人工林



広葉樹が中心の
針葉樹とミックスした多様な森林

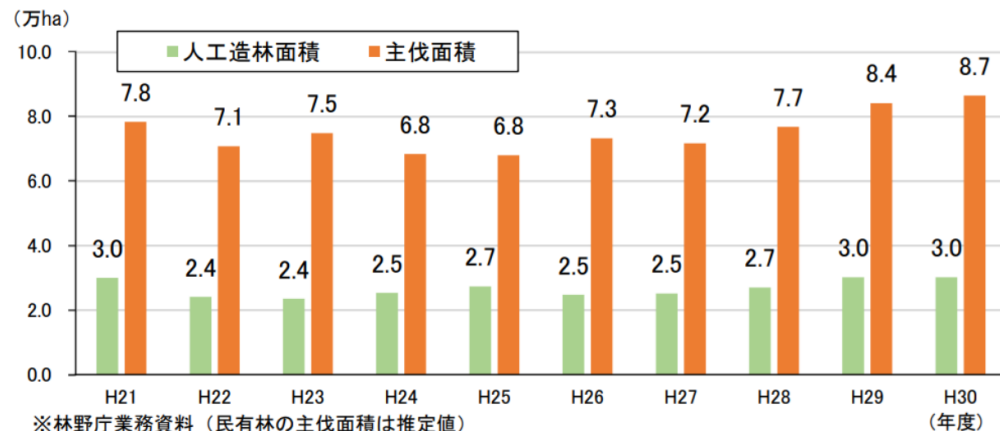
人工林の多くは林齢が50年を超え、収穫可能な時期を迎えていることから、全国的に人工林の皆伐が増加傾向。

一方で、皆伐後に放棄されたままの未植栽地も増えている。

こうした再造林放棄地は皆伐地全体の6～7割ともいわれ、未植栽の状態で放置することが土砂災害などの要因の一つになっているという指摘もある。

【再造林率が3割台と低迷している主な理由】

- 再造林の費用が捻出できない
- 林業の収益性が将来的に見込めず所有者の森林管理に対する意欲の低下
- 造林・育林の人材不足



出典：「多様で健全な森林への誘導」 林野庁（2020年10月）



「多様性のある森」を支える主なパートナー

more**Trees**

あいおいニッセイ同和損保
MS&AD INSURANCE GROUP

Have a good
Cashless.

SMBC
三井住友カード

SMBC
三井住友銀行



au じぶん銀行



Kiehl's
SINCE 1851

BOTANIST

UNITED ARROWS LTD.

dinos

Manulife
マニユライフ生命

UGG®



第一生命

Callaway

Members

CITIZEN



「多様性のある森づくり」には「土地」「人」「苗木」の3要素が欠かせないものの、それぞれに課題がある

1 **土地**
中長期的に施業が可能な、持続性の担保された事業地の確保が困難

2 **人**
目標とする林型をもとに造林・育林が実施できる、地域に根差した事業体や人材の不足

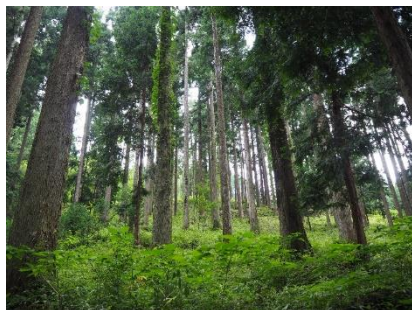
3 **苗木**
地域の遺伝子を受け継いだ広葉樹苗の供給が不安定



土地

- その土地の状況や環境に応じたゾーニング
- 「公共性」が高く、「永続性」担保される土地が大前提
- 公有林 or 民有林は不問 皆伐地 or 非皆伐も不問

◆ゾーニング



立地・環境などが林業に適した場所は引き続き「単一人工林」としてスギやヒノキなどを中心とした育林を実施



本来は林業に不向きな皆伐地や不成績造林地は広葉樹を織り交ぜた「混交林・広葉樹林」に転換

◆地域例

▶ 北海道下川町

循環型森林経営を行う町有林のうち不成績造林地に対する再造林



▶ 鳥取県智頭町

スギ林の沢沿い（溪畔林）を強度間伐＋樹下植栽して広葉樹に転換（町有林）



▶ 和歌山県田辺市

地域コミュニティ所有の民有林皆伐地への再造林（ウバメガシを中心とした広葉樹に転換）

